

政策体系	政策No.	4	政策名	育み磨きあうまちづくり			施策主管課	教育総務課	
	施策No.	4	施策名	伝統文化の保存・継承	重点施策		施策主管課長名	東郷 一徳	
施策関係課名	総務課、観光課、文化振興課								
1 基本計画期間(平成20年度～平成24年度)における施策の方針 地域や保存団体が主体となって伝統文化を保存・継承し、市民が学び知る機会を設け、郷土づくりの意識や自発的な保存活動の高まりを促す。そのために、伝統文化や地域で行っている活動を、広く周知するための広報活動の強化に努める。また、文化財や埋蔵文化財などの調査を進めるとともに、保存・整備を図る。									
2 施策の目的と成果把握									
① 対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		・市民 ・伝統文化 伝統文化とは、有形、無形の文化財(郷土芸能、伝統工芸は含まれる)及び食文化(七草粥など)や風習などいわゆる文化財のことをさす。							
② 対象指標 (対象の大きさを表す指標)		単位	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
A	指定文化財の数(登録文化財含む)	件	見込み値	119	121	123	125	127	129
			実績値	118	119	119	123	123	
B	継承されている郷土芸能の数	件	見込み値	44	44	44	44	44	44
			実績値	43	44	44	38	40	
C	その他の伝統文化の数(指定・登録文化財以外)	件	見込み値	501	530	640	570	580	590
			実績値	504	504	524	523	532	
③ 意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)		伝統文化に触れる機会を持つ 保存・継承される ※伝統文化に触れるとは、 ・郷土芸能や年中行事を鑑賞したり、自ら行うこと。 ・伝統文化について学ぶこと。 ※保存継承される文化財の数とは、 ・文化財の由来や形態、所在地などを調査し、報告書・パンフレット・HPなどで市民に周知した文化財の数。							
④ 成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%～105%未満) △目標を未達成(95%未満)							
		単位	区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
A	伝統文化に触れている市民の割合	%	成り行き値	67.0	67.0	66.0	66.0	65.0	65.0
			目標値	70.0	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
			実績値	69.0	78.5	81.3	74.3	77.3	
			達成率	99%	111%	113%	102%	104%	
			結果	○	◎	◎	○	○	
B	伝統文化(郷土芸能、伝統工芸)の活動者数	人	成り行き値	2,400	2,300	2,200	2,100	2,000	1,800
			目標値	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450
			実績値	2,432	2,644	2,515	2,650	2,566	
			達成率	99%	108%	103%	108%	105%	
			結果	○	◎	○	◎	◎	
C	保存継承される文化財の数	件	成り行き値	664	664	664	664	664	664
			目標値	664	695	757	690	700	710
			実績値	665	667	684	690	695	
			達成率	100%	96%	90%	100%	99%	
			結果	○	○	△	○	○	
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						
⑤ 成果指標の測定方法 (実際にどのように実績を把握するか)				⑥ 平成24年度の目標値設定の考え方					
・A…伝統文化に触れている市民の割合 ※総合計画進行管理に係る市民意識調査 ・B…伝統文化(郷土芸能や伝統工芸)の活動者数 ※郷土芸能や伝統工芸に関わる団体に登録している人数 ・C…保存継承される文化財の数 ※①保存・整備されている文化財の数 ※②文化財の調査を終え、パンフレットやHPに掲載している文化財の数				A ・「伝統文化に触れている市民の割合」については、市民が伝統文化に触れる機会の提供により郷土の歴史への認識を深めてもらうとともに、伝統文化を大切に育む心と心を育み、平成24年度には6%の成果向上を目指す。 B ・「伝統文化(郷土芸能、伝統工芸)の活動者数」については、継承者の高齢化などに伴う後継者不足に苦慮している状況があるが、地域が一体となって保存・継承を推進することにより現状の維持に努める。また、活動休止中の団体にも呼びかける。 C ・「保存継承される文化財の数」については、市内にある文化財を後世に残すため、地域住民と連携を図りながら保存・継承を進める。平成19年度現在、指定文化財を含む文化財の数は665件であるが、今後もさらに文化財の調査を進め、平成24年度には45件の増加を目指す。					

3 基本計画期間で解決すべき施策の課題(総合計画書より)

- ・社会の急激な変動に伴い、伝統文化の中には失われつつあるものがある。そのため、日常的に伝統文化に親しみ、学習する機会を設ける必要がある。
- ・郷土芸能保存会の活性化を図るため、発表の場の提供や保存会の運営に必要な手立てを講じる必要がある。
- ・豊かな文化財を有機的につなぎ、市民や観光客が文化財に親しむ環境づくりが求められている。そのためには、それぞれの文化財を調査し整備を図ることが必要である。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等

① この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)

ア) 行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ) 市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割
■行政 ・地域の伝統・歴史を市民に知る機会や学ぶ場を提供し、市民の伝統文化に対する理解を深める。 ・伝統文化(特に郷土芸能や年中行事)の活用は、地域の活性化、地域づくり、コミュニケーションづくりの役割としての位置付けができるため、地域と保存団体等との連携を図る。	■市民 ・伝統文化を大事にする心を育てること。 ・伝統文化を家庭や地域ぐるみで守り育てること。 ■地域・団体 ・地域に住む年輩者が、伝統文化を若い世代へ受け継ぐ意識を高めること。 ・伝統文化を将来に継承するリーダーを養成する。

② 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?

- ・近年の急激な社会変化や生活様式の多様化などにより、市民が伝統文化に触れる機会が減少しているほか、古来より連綿と受け継がれてきた郷土芸能や風俗・習慣など地域の核となるような伝統行事の存続が危機的状況にある。
- ・開発行為等により、消失する文化財が出てくる恐れがある。

③ この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?

- ・議会や保存団体から伝統文化(郷土芸能・年中行事)の継承活動に要する経費については、継続して補助金としての支援が要請されている。
- ・霧島市の文化財は、その質・量とも豊富であり、これを総合的な見地から保存・整備を進めることが大事であるとの市民からの意見が多い。
- ・郷土の歴史・文化に関心を持つ市民が多く、資料の請求や史跡めぐりの開催などの要望が多い。

5 施策の現状

① 平成23年度施策の取組方針

ア: 各種刊行物を作成し、市民が伝統文化を学ぶ環境づくりを行うとともに、郷土芸能保存会の活性化を図るため、第2回霧島市郷土芸能祭を開催する。

イ: 文化財の保存・整備については、昨年度に引き続き、大隅正八幡宮関連遺跡の発掘調査や社殿修復、天然記念物の養生等を実施するとともに、大隅国建国1300年記念事業に向けた関連事業を展開する。

② 平成23年度施策の取組方針の達成状況

ア: 史跡めぐりや出前講座、第2回霧島市郷土芸能祭、郷土館等による企画展などを実施し、市民に学ぶ機会を積極的に提供した。また、「霧島市の石仏」等の刊行物を作成した。

イ: 鹿児島神宮、霧島神宮の社殿改修や、福山のイチョウの養生を計画どおり実施した。大隅正八幡宮関連遺跡については、発掘調査を行うとともに指導委員会を開き、今後の調査の在り方を協議した。

③ 平成23年度施策の目標値と実績値の比較

目標達成 ◎ 105%以上
 目標をほぼ達成 ○ 95%~105%未満
 目標を未達成 △ 95%未満

	平成23年度成果指標			結果
	目標値	実績値	達成率	
A	74.0	77.3	104.0%	○
B	2,450	2,566	105.0%	◎
C	700	695	99.0%	○
D				
E				

④ 平成23年度施策の成果指標の達成状況

- ・伝統文化に触れている市民の割合については、前年度に比べ実績値は3ポイント増加し、目標値を3.3ポイント上回り、目標を達成した。その要因としては、各種イベントなどが定着し、自ら参加する人の割合が固定化しつつあることが考えられる。
- ・伝統文化(郷土芸能、伝統工芸)の活動者数については、前年度に比べ実績値は84人減少したが、目標値を116人上回り、目標を達成した。保存会の構成員の高齢化による微減はあるものの、目標値を超えている状況である。
- ・保存されている文化財の数(指定文化財+未指定文化財)については、前年度実績値より5件増加し、目標値を5件下回ったものの、目標をほぼ達成した。その要因としては、当初10件の新たな文化財の整備を想定していたが、大隅国政庁推定地である府中地区等の発掘調査や霧島市の石仏調査(刊行)等の成果があげられる。

⑤ 基本事業の

目標達成度
(平成23年度目標と実績との比較)

○=すべての目標値を達成 △=一部の目標値を達成 ×=すべての目標値を未達成

① 伝統文化を学ぶ環境づくり	○	④ 文化財の活用	○
② 保存団体への支援	△	⑤	
③ 文化財の保存・整備	△	⑥	

6 平成24年度の施策の取組方針 (昨年度マネジメントシートより)

ア: 市内各地の文化財を活用したパネル展やイベント等を開催し、霧島の自然・歴史・文化を市民に幅広く周知を図る。

イ: 郷土芸能保存団体の活性化を図るため、既存の組織間の連携を深め、(仮称)霧島市郷土芸能保存団体連絡協議会の組織化を目指す。

7 平成25年度に向けた施策の課題・方向性

基本事業No.	4-4-1	基本事業名	伝統文化を学ぶ環境づくり	基本事業 主担当課	文化振興課
---------	-------	-------	--------------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針

①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）

各地域の貴重な伝統文化を、市民に広く学んでもらうため、広報誌や冊子などを通じた情報提供に努める。また、伝統文化を大切に思う心を育むため、伝統文化と親しく触れる機会の提供に努める。

②対 象	地域住民	③意 図	地域の伝統文化を学び郷土を知ることができる。
------	------	------	------------------------

2 基本事業の指標等の推移 ◎目標達成(105%以上) ○目標をほぼ達成(95%~105%未満) △目標を未達成(95%未満)

①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標年度)
A	伝統文化を知っている市民の割合	%	市民意識調査	成り行き値	67.0	67.0	66.0	66.0	65.0	65.0
				目標値	70.0	71.0	72.0	73.0	74.0	75.0
				実績値	71.5	79.7	80.8	80.9	75.8	
				達成率	102%	112%	112%	111%	102%	
				結果	○	◎	◎	◎	○	
B				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
C				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
D				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

郷土の伝統文化を知っている市民の割合は、若い世代ほど低下する傾向にあり、今後成り行きとしては減少していくものと思われる。(20代、30代では49%程度の水準)目標値としては、貴重な郷土芸能や食文化、年中行事、方言などを存続させていくためにも文化財の調査研究や広報活動を強化しながら、地域ぐるみでの保存・活用を促進することで現状水準を維持することを基本に設定する。

4 平成23年度基本事業の取組方針 | **5 平成23年度基本事業の取組方針の達成状況**

ア: 昨年度に引き続き、市民が伝統文化を学ぶ環境を強化するため、市報による郷土の自然・歴史・文化の紹介や、分野ごとの文化財の調査並びにハンドブックの作成に取り組む。	ア: 市民に市内の伝統文化を紹介するために、「霧島市の石仏」ハンドブックを作成した。また、市報に「郷土史への扉」を掲載し、市民が伝統文化を学ぶ環境を強化した。
イ: 市民に薩摩義士の偉業を知ってもらい、薩摩義士に興味を持ってもらうため、薩摩義士に関する学習教材を発行する。	イ: 霧島市薩摩義士顕彰会において、学習教材としても活用できる「薩摩義士の話」を作成し、市内小・中・高校及び各公民館に配布した。

6 平成23年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因

・伝統文化に触れている市民の割合については、前年度実績値より5.1ポイント減少したものの、目標値を1.8ポイント上回り、目標を達成した。その要因としては、たくさんの方が目にする市報により、「郷土誌の扉」を定期的に掲載したことが考えられるが、実績値は昨年より減少していることから、周知方法を工夫する必要がある。

7 平成24年度基本事業の取組方針 | **8 平成25年度に向けた基本事業の課題・方向性**

霧島の自然・歴史・文化を市民に幅広く周知を図るため、「霧島市を知る」ハンドブックの作成のための調査や、「薩摩義士に学ぶ」を引き続き刊行する。なお、なるべく多くの市民に刊行物を紹介する手立てを検討する。	
--	--

基本事業No.	4-4-2	基本事業名	保存団体への支援	基本事業 主担当課	・文化振興課 ・観光課
---------	-------	-------	----------	--------------	----------------

1 基本事業の目的、取組み方針	
①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）	
<ul style="list-style-type: none"> 自治会の年間活動計画に伝統文化活動等を導入するなど、地域ぐるみで地域の歴史や伝統を学ぶことのできる環境づくりに努める。 校区や自治会等の催しに伝統文化の発表時間を設けて発表の場を確保し、体験の共有を図る。 	
②対象	・市民 ・保存団体の構成員
③意図	伝統文化を継承し、広めてもらう。

2 基本事業の指標等の推移		◎目標達成(105%以上)		○目標をほぼ達成(95%~105%未満)		△目標を未達成(95%未満)			
①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標年度)
A 郷土芸能に関わる人数(団体登録者)	人	団体登録者数	成り行き値	2,400	2,300	2,200	2,100	2,000	1,800
			目標値	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450	2,450
			実績値	2,432	2,664	2,515	2,650	2,556	
			達成率	99%	109%	103%	108%	104%	
			結果	○	◎	○	◎	○	
B 発表を行っている団体数	件	イベント等で発表を行った保存団体の数	成り行き値	44	42	40	38	36	34
			目標値	44	44	44	44	44	44
			実績値	43	44	45	38	35	
			達成率	98%	100%	102%	86%	80%	
			結果	○	○	○	△	△	
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠
郷土芸能等に携わる人や団体は固定化しており、この人々によって郷土芸能として保存され地域の祭事等で発表されている。このように現在保存されている郷土芸能をひき続き保存していくことが目標であり、保存されやすい環境づくりをするために、郷土芸能の発表の機会を提供し、継承している人の伝統文化に対する意識高揚を図る。

4 平成23年度基本事業の取組方針	5 平成23年度基本事業の取組方針の達成状況
第2回霧島市郷土芸能祭の実施については、より多くの保存会が出演できるよう調整する。なお、郷土芸能祭は全国お茶まつり鹿児島大会にあわせて実施することで、より多くの市民に紹介することとしている。	第2回霧島市郷土芸能祭を、全国お茶まつり鹿児島大会にあわせて開催し、各地域から7つの保存団体が出演した。市外、県外からの来場者もあり、より多くの人に広く紹介することができた。

6 平成23年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因
<ul style="list-style-type: none"> 郷土芸能に関わる人数(団体登録者)については、前年度実績値より94人減少したが、目標値を106人上回っており、目標を達成した。保存会の構成員の高齢化による微減はあるものの、目標値を超えている状況である。 発表を行っている団体数については、前年度に比べ3件減少し、目標値を9件下回り、目標を達成できなかった。その要因としては、郷土芸能保存団体会員の高齢化による脱退ならびに保存会の活動休止が主なものである。

7 平成24年度基本事業の取組方針	8 平成25年度に向けた基本事業の課題・方向性
既存の組織間の連携を深め、(仮称)霧島市郷土芸能保存団体連絡協議会の組織化を目指すとともに、郷土芸能の記録・保存を実施していく。	

基本事業No.	4-4-3	基本事業名	文化財の保存・整備	基本事業 主担当課	文化振興課
---------	-------	-------	-----------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針			
①基本計画期間における取組み方針（総合計画書より）			
<ul style="list-style-type: none"> ・文化財を保護するために必要な整備を行う。また、文化財の指定については、文化遺産として年次的に登録するための調査を実施する。 ・地域が主体となった文化財保護活動・環境整備推進のため、地区自治公民館、自治会等と連携し、文化財への理解と協力を求めていく。また、文化財の保存・活用を担う地域リーダーを養成するための取組みを行う。 			
②対象	文化財	③意図	適切に保存し、後世に残す。

2 基本事業の指標等の推移		◎目標達成(105%以上)		○目標をほぼ達成(95%~105%未満)		△目標を未達成(95%未満)				
①成果指標名		単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標年度)
A	保存されている文化財の数 (指定文化財+未指定文化財)	件	市民に周知している文化財の数	成り行き値	664	664	664	664	664	664
				目標値	664	695	757	690	700	710
				実績値	665	667	684	690	695	
				達成率	100%	96%	90%	100%	99%	
				結果	○	○	△	○	○	
B	整備する文化財の数(累計)	件	整備した文化財の数	成り行き値	190	190	190	190	190	190
				目標値	210	242	263	284	305	326
				実績値	214	237	248	278	284	
				達成率	102%	98%	94%	98%	93%	
				結果	○	○	△	○	△	
C				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						
D				成り行き値						
				目標値						
				実績値						
				達成率						
				結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠
文化財は地域で保存していくことを基本とし、現在保存されている文化財を引き続き保存継承することを目標とする。

4 平成23年度基本事業の取組方針	5 平成23年度基本事業の取組方針の達成状況
文化財を後世に残すため、社殿修復や天然記念物の養生を図るとともに、大隅国建国1300年関連事業の一環として、大隅国府推定地である府中地区の発掘調査を実施する。	鹿児島神宮、霧島神宮の社殿改修や、福山のイチョウの養生を計画どおり実施した。大隅国の政庁推定地である府中地区の発掘調査や、国指定を目指すための真木願穴群現地調査を実施し、報告書を作成した。

6 平成23年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因
<ul style="list-style-type: none"> ・保存されている文化財の数(指定文化財+未指定文化財)については、前年度実績値より5件増加し、目標値を5件下回ったが、目標をほぼ達成した。その要因としては、大隅国政庁推定地である府中地区等の発掘調査は目標通り実施したがm霧島市の石仏調査での新たな石仏の発見が3件に留まったことがあげられる。 ・整備する文化財の数(累計)については、前年度に比べ実績値では6件増え、目標値は21件下回った。その要因としては、文化財を紹介する案内看板の表記が旧町名や誤字が見られ、その修正を行ったため、あらたな看板や標柱の設置ができなかったことが上げられる。

7 平成24年度基本事業の取組方針	8 平成25年度に向けた基本事業の課題・方向性
山ヶ野金山の全貌を明らかにするために、現地調査を実施する。埋蔵文化財については、大隅正八幡宮宮内遺跡や大隅国府跡の発掘調査を行う。	

基本事業No.	4-4-4	基本事業名	文化財の活用	基本事業 主担当課	文化振興課
---------	-------	-------	--------	--------------	-------

1 基本事業の目的、取組み方針	
①基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)	
<p>市内に点在している文化財の案にあ表示等を年次的に整備し、史跡めぐりコースの設定を行うことで、市民が郷土の歴史への理解を深めるとともに、観光資源としての活用も検討していく。</p>	
②対 象	市民
③意 図	文化財を学び郷土の歴史を正しく理解する。

2 基本事業の指標等の推移		◎目標達成(105%以上)		○目標をほぼ達成(95%~105%未満)		△目標を未達成(95%未満)			
①成果指標名	単位	②成果指標の測定方法	③数値区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度 (目標年度)
A	郷土の歴史を学んだ市民の数	郷土館入館者数、各種イベント参加者数	成り行き値	8,000	7,500	7,000	6,500	6,000	5,500
			目標値	9,000	9,200	9,400	9,600	9,800	10,000
			実績値	8,753	9,254	9,512	10,239	10,499	
			達成率	97%	101%	101%	107%	107%	
			結果	○	○	○	◎	◎	
B			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						
C			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						
			達成率						
			結果						

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠
<p>「霧島市の歴史を知る」企画として、現状で述べた事業を今後も継続して実施する計画であるが、郷土館の入館者や史跡めぐりの参加者のみでは減少傾向になると思われる。そこで、文化財マスタープランの作成や「歴史探索の道」ルート指定をするなど、郷土の歴史を学べる環境とその機会を更に充実していくことで、市民が霧島市の歴史に触れる人の数を、19年度以降年次的に増加させていくことを前提としての目標値とした。</p>

4 平成23年度基本事業の取組方針	5 平成23年度基本事業の取組方針の達成状況
<p>大隅国建国1300年記念事業や島津義久公没後400年記念事業に関連した事業を展開する。</p>	<p>大隅国建国1300年記念事業を推進するため、準備委員会を発足し、その事業の方向性を検討した。また、関連事業として大隅国府解明のために、発掘調査を実施した。 島津義久公没後400年記念事業として、「島津義久展」を国分郷土館等で実施した。</p>

6 平成23年度基本事業の成果指標の達成状況及び要因
<p>・郷土の歴史を学んだ市民の数については、前年度実績値より260人増加し、目標値を699人上回り、目標を達成した。その要因としては、島津義久公没後400年記念事業として、「島津義久展」や史跡めぐりを実施したことや、国分郷土館において「鉄道展」を開催し、市民の興味・関心を喚起したことが考えられる。</p>

7 平成24年度基本事業の取組方針	8 平成25年度に向けた基本事業の課題・方向性
<p>市民の郷土の歴史への理解を深めるため、上野原縄文の森開園10周年記念事業にあわせた「縄文シティサミットinきりしま」を開催する。また、平成25年が大隅国建国1300年にあたることから、連続講座の実施やリフレット作成を行う。</p>	